

2

2009年の国内クライアント仮想化市場規模は1,265億円 年間平均成長率は27.5%、2013年には3,770億円に

- IDC Japanは、2009年上半年（1月～6月）の実績調査をもとに、クライアント仮想化ソリューション市場規模について分析を行った。それによるとクライアント仮想化ソリューション市場規模は、2009年は1,265億円、2013年には3,770億円に達すると予測。2008年～2013年の年間平均成長率（CAGR：Compound Annual Growth Rate）は27.5%で推移すると予測している。

クライアント仮想化の累積導入率は 2013年に36.1%に到達

IDC Japanでは、クライアント仮想化ソリューションを、PC、シンクライアント、携帯情報機器等のクライアントデバイス、クライアント仮想化ソフトウェア、サーバおよびシステム構築費と定義している。クライアント仮想化ソリューションの中核をなすクライアント仮想化ソフトウェア市場においては、2009年上半年（1月～6月）は26万ライセンスが出荷され、2013年には124万ライセンスまで増加すると予測。デスクトップ仮想化ソフトウェア市場には多くのベンダーが参入し

ており、2008年～2013年の年間平均成長率は61.8%と非常に高い成長率で推移すると予測している。さらに、クライアント仮想化の2013年までの累積導入率は、法人向けクライアントPCの稼働台数に対して、36.1%まで拡大するとみている。

2010年はクライアント仮想化の 価値が試される重要な年に

一方、シンクライアント専用端末の出荷台数は、金融危機および景気後退の影響を受け、2009年上半年（1月～6月）の実績値は約6万台で、前年比1.8%のマイナス成長となった。しかし2010年後半から回復に向かい、シンクライアント化端末と合

わせた出荷台数は、2013年に34万台超まで拡大するとみている。

IDC JapanのPC、情報端末&クライアントソリューション シニアマーケットアナリストの渋谷寛氏は、「2009年は国内クライアント仮想化元年となった。通信事業者の新規参入、仮想化ベンダーのクライアント仮想化製品ポートフォリオの拡充、ホスティングサービス事業者の新規参入など、市場を取り巻く環境は急速に変化している。今までのシンクライアントで培われた技術と、ユーザー企業のクライアント仮想化に対する取組みが合致し、2010年は、クライアント仮想化がビジネス課題を解決するためのツールとして、有効であることを試す重要な年となる。またDaaS（Desktop as a Service）、そして携帯情報機器への仮想化技術の実装は、さらなる市場拡大への布石となる」と語っている。

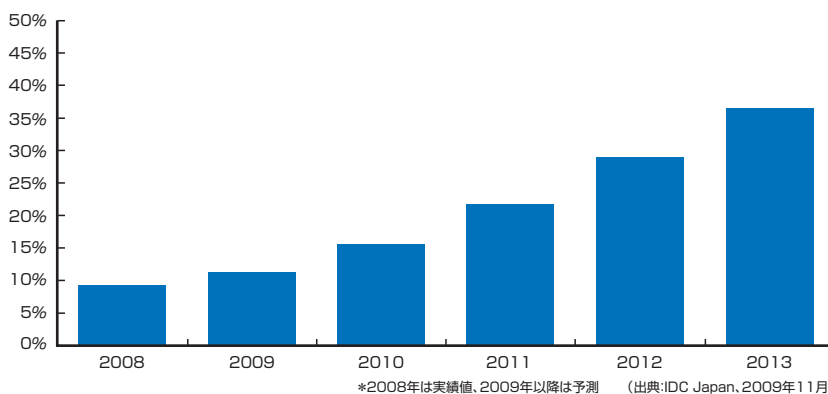


図1 国内法人向けPCおよびシンクライアント稼働台数に対する
クライアント仮想化導入率予測、2008年～2013年

● お問い合わせ先 ●

IDC Japan(株) セールス
TEL : 03-3556-4761
E-mail : jp-sales@idcjapan.co.jp
URL : http://www.idcjapan.co.jp/